

せたがやアーツプレス

SETAGAYA ARTS PRESS



世田谷文化センター

シャンハイムーン

野村萬斎 広末涼子

岸 リトラル

上村聡史 岡本健一

世田谷美術館

ボストン美術館

パリジェンヌ展

時代を映す女性たち

世田谷文学館

ミロコマチコ

いきものたちの音がきこえる

生活工房

真田岳彦ディレクション

衣服・祝いのカタチ vol.2

音楽事業部

お話と音楽で贈る

「建築と音楽」

2017.12-2018.3

Vol. 12

公益財団法人 せたがや文化財団

『シャンハイムーン』

野村萬齋×広末涼子

2012、15年に上演された井上ひさし作『藪原検校』では、栗山民也演出のもと、狂言師、そしてアーティストとしての野村萬齋の魅力がフルに生かされ、エネルギーで愛嬌すらある悪漢が誕生した。さて2018年2～3月、両者が再びタッグを組み、井上ひさしの中期の傑作『シャンハイムーン』が上演される。主人公の魯迅を演じる萬齋と、初の共演となる広末涼子が熱い思いを語る。

世田谷パブリックシアター開場20周年の掉尾を飾るのは、井上ひさしの名作『シャンハイムーン』。「阿Q正伝」や「狂人日記」でおなじみの中国人作家であり、文学・思想革命の指導者でもあった魯迅の、晩年の約1ヶ月を描いた作品だ。魯迅を演じるのは野村萬齋。井上作品への出演は『藪原検校』以来2作目となる。

『藪原』の主人公の杉の市は、社会の最下層からの上がったダークヒーローで、たった28年の短い人生をものすごい勢いで駆け抜けるように生きた人です。「早物語」の場面をはじめ、古典芸能で培った発声や身体性をフルに発揮できたのではないかなと思えるほど、役者冥利に尽きる舞台となりました」と萬齋は語る。今回も演出は『藪原』でタッグを組んだ栗山民也だ。

「舞台や映画で一緒した三谷幸喜さんや犬童一心監督が『藪原』をご覧になって、“萬齋をこんなふう生き生きと使いこなすなんて”と栗山さんに嫉妬したという話も(笑)。栗山さんとはとにかく井上作品のエキスパートでいらっしやる。稽古場はとてども勉強になるんです」と期待を寄せる。

舞台となるのは1930年代の上海の日本租界。日本人の内山完造夫妻が営む書店の2階に、逃亡中の魯迅が匿われている。

「魯迅はこの作品の中で、“日本人は好きだが、日本という

国は嫌いだ”と言います。現実には、内山夫妻はじめ彼を崇拜する日本人によって彼の命は護られているんですよ。また偉人として海外にも多くのファンを持つ魯迅ですが、家族に対しては歪んだ態度をとる。こういった対比の構造が、あちこちに用意されているんです」

ありとあらゆる病気に蝕まれている魯迅。なのに大の医者嫌いとする。内山夫妻たちがあの手この手で治療を試みるのだが、魯迅には人物誤認の症状が出始めてしまう。

「その奇妙な症状のせいで周りは右往左往させられるので、ばかばかしくておかしい場面なのですが、次第に一人ひとりの本質があぶりだされてくるんです。ここにも井上先



▲ 2015年こまつ座 & 世田谷パブリックシアター『藪原検校』(撮影:谷古宇正彦)

世田谷パブリックシアター
こまつ座&世田谷パブリックシアター
『シャンハイムーン』
2018年2月18日[日]～3月11日[日]

【作】井上ひさし 【演出】栗山民也
【出演】野村萬齋 広末涼子 鷲尾真知子 土屋佑吉 山崎一 辻萬長

一般 S席(1・2階席) 8,600円 A席(3階席) 6,500円 S席8,400円 友 S席8,100円
U24 高校生以下 一般料金の半額 (12月10日[日]より一般発売) お問い合わせ: 劇場チケットセンター ☎ 03-5432-1515
※未就学児入場不可 ♿

2月	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	3/1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	
13:30				★	★		●	●	●	●	●	●	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
15:00			●																				
18:30			●																				

★=ポストトークあり(野村萬齋 ほか) ◇=収録のため客席にカメラが入ります
●=視覚障害者のための舞台説明会あり(無料・要予約)

◎ 野村萬齋 のむら・まんさい

狂言師。世田谷パブリックシアターでは、『まちがいの狂言』など狂言の技法を駆使した舞台や、『国盗人』など古典芸能と現代劇の融合を図った舞台を次々と手がけ、自らの構成・演出作『敦—山月記・名人伝—』では朝日舞台芸術賞、紀伊屋演劇賞を受賞。ほかにも全国各地、海外公演も果たした『マクベス』、新演出の『子午線の祀り』など、多くの作品を演出。2002年より世田谷パブリックシアター芸術監督。

◎ 広末涼子 ひろすえ・りょうこ

1994年にCMデビュー。97年、初主演映画『20世紀ノスタルジア』で各映画賞の新人賞を多数受賞。以降、CM、ドラマ、映画、舞台など立て続けに出演し一躍注目を集める。主な舞台作品に、『ぼくに炎の戦車を』(演出:鄭義信)、『キル』(演出:野田秀樹)、『飛龍伝』(演出:岡村俊一)、『幕末純情伝』(演出:杉田成道)、『四谷怪談』(演出:蛭川幸雄)などがあり、栗山民也演出作品では、朗読『宮沢賢治が伝えること』に出演している。



生ならでの批評性が埋め込まれていると感じます」

さらに終盤、魯迅には失語症の症状も出始める。作家が言葉を失っていくなんて本来なら悲劇のはず。だが、話せば話すほど意味がどんどんずれていく会話は、もはやナンセンスでコミカル。どこかシェイクスピアの言葉遊びのようでもある。

「井上先生は、シェイクスピアやチャーホフ、ブレヒトなど古今東西の戯曲に精通されていたので、おそらくそれらのオマージュ、パロディを意識されているのではないのでしょうか。“ここはその作品をイメージして取り入れて膨らませよう”という具合に。だからこそ、井上作品はどれも豊かなのでしょう」

ともすれば意固地で頑固。外から見れば偉大な作家・思想家でも、周りの人々に支えられなければ生きていけない。

「僭越ですが、ちょっぴり親近感を感じるんです。表現者が自分の道を突き進もうとすると、どうしても周りに負担をかけてしまうことがあります。ですが、舞台にしる映画にしる現場では、みなさん“何だか異質な人がいるなあ”と思いつつも僕を面白がり、愛を注いでくださる(笑)。劇場へ行くと、スタッフの皆さんが僕を盛り立ててくださる。これは本当にありがたい嬉しいことです」



「お客様の目の前でアクトする“舞台”というお仕事は、私にとって特別な時間。映像とは違ったライブ感と緊張感に

加え、客席からの“生”の反応を返していただけることで、私自身、役者として成長できるチャンスだと思って臨んでいます」と語るのは、魯迅の第二夫人・許広平を演じる広末涼子。舞台出演は5年ぶりだが、『シャンハイムーン』を読んで、温かい思いに包まれたという。

「国や時代を越えて、人と人との絆の強さや愛情の深さ、心に感じる切なさや愛おしさを感じました。難しく語るのではなく、滑稽にリズムカルに大切なことを観せてくれる舞台になるのではと、演じる前からワクワクしています」とも。

許広平は魯迅の妻であり同志でもある。この役へどんなふうアプローチするのだろう。

「許広平はとにかく魯迅の才能と人柄に惚れ込んでいます。彼の才能ゆえの奔放さやキュートで愛らしい部分を、妻として、時には母のように論じ、しっかり受け止める強さ。その両面を表現できたら」と。

改めて、この作品の時代背景が80年以上も前であることに驚く。他国との関係に揺れ続ける現代の我々にこそ、重く響くはずと萬齋は言う。

「国と国の関係となると利害が絡み、時にぶつかってしまいます。でも人と人とは、国が違ってもまっとうにつきあえるし、善意を贈れば善意として返ってきます。人の気持ちは国境を越えていけるもの。そう信じたいですね」

[取材・文:五十川晶子]

[写真:岩井寛(VISIONARY VANGUARD)]

『岸 リトラル』——演出・上村聡史×出演・岡本健一

世田谷パブリックシアター

[撮影：宮川舞子]

10月7日・8日にシアタートラムで上演された、「戯曲リーディング『岸 リトラル』より」は、リーディングの域を超えた来春上演の本公演さながらの熱気あふれる充実した舞台で観客を圧倒した。演じたのは岡本健一、ギターを生演奏は国広和毅、そして演出は上村聡史。2014年、17年にシアタートラムで上演、数多くの演劇賞に輝き、演劇界に大きな衝撃を与えた『炎 アンサンディ』と同じメンバー。上村・岡本のタッグで再び挑むワジディ・ムワド戯曲の第2弾、『岸 リトラル』。「進化と深化」を図ったリーディング上演について、そして本公演に向けての2人の意気込みは――。

——『岸 リトラル』リーディングを上演しようとされた経緯を教えてください。

上村 『炎 アンサンディ』の再演のときに、時間をかけて取り組むと作品が芳醇なものに仕上がった経験を踏まえ、本編の前に咀嚼作業を行なえたらいいなと思いました。リーディングでは本編の1／3ぐらいやったのです

が、作家が28歳のときに書いた疾走感が持ち味。作品の本質や根幹を発見するため伴走していきたく。

岡本 リーディングでは本編の出演者を含む役者の声を録音して上演したのですが、稽古では、全員分をばく一人で声を出してやってみて、そのときがいちばん感動したんです(笑)。お母さんの感情や異国の地や戦場の場面でのつらい気持ちなど、味わったことのない変な感情が湧き出てきましたね。リーディングで希望したのは、僕と国広くんのギター演奏。いわゆる「朗読劇」のイメージってありますよね。それはやめて、とにかく過激な演出にしてほしいと上村さんに要望を出しました。

上村 『岸 リトラル』の後半では「歌う娘」が出てきて人物を歌で繋ぎ、生の混沌が展開する陸を放浪し、その末に魂の浄化が期待できる海にたどり着きます。そういった意味でも感覚的に伝わりやすい音楽を時に過激に、時に静謐に多用していくことで、物語に奥行きを出していきたいと思います。

岡本 すごく楽しみだな。

上村 また『岸 リトラル』には「ハムレット」や「オイディプス王」、ドストエフスキーの「白痴」など、すべて父に関わるモチーフがあり、それらが混然一体となってラストシーンは「オデュッセウスの帰還」と重なります。戦争と愛の痕跡を古代から伝わる物語の名作を使い、現代にも通じる普遍性を照射する。リーディングでは前半の現代を描

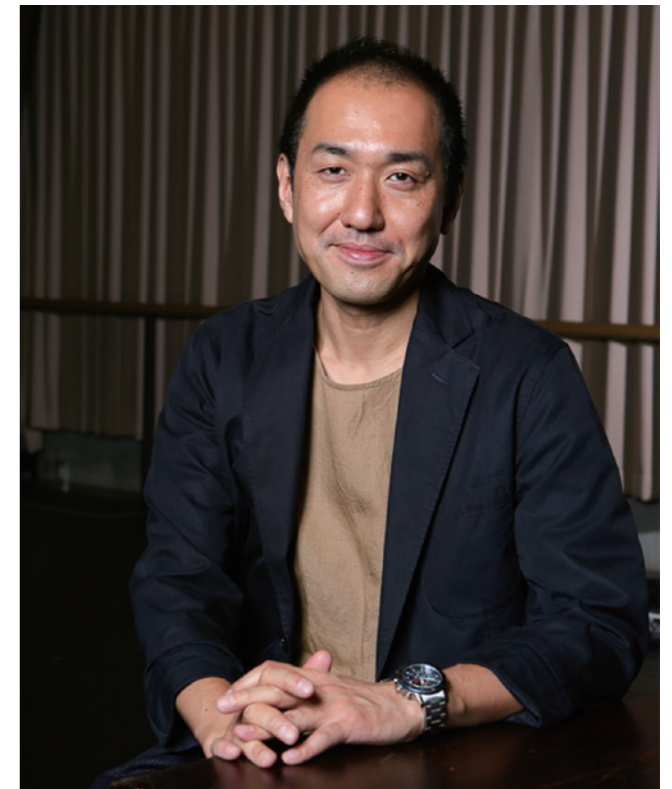
きましたが、全編上演する本公演では後半にどのように、それら名作とオーバーラップして描いていけるか構想中です。

——『炎 アンサンディ』の初演、再演、そして『岸 リトラル』のリーディング公演と段階を経て、ワジディ・ムワド作品との対峙の仕方には変化はありましたか。

上村 ムワド作品を演出するということが「世界で何が起きているか」を踏まえることが大事だと思い、『炎 アンサンディ』の初演のとき「憎むところは戦争」にフォーカスを当てていました。再演をやって、その裏側にある「愛すること」と「生きていくこと」が、いかに表裏一体かという具合に膨らませ、憎しみと愛の二項対立の境をあえてとらないように心がけました。人を愛する限り戦争は終わらないという悲しい方程式が古代からあるのだとしたら、殺戮と愛する歴史をメタファーとして使いながら諦観した視線で世界を捉えているあたりが、作家ムワドの特質かと思えます。

岡本 ムワド一人では生まれぬ世界で、信頼する友人たちと話しながらか作品作りをしているところもポイントです。それと自分のルーツを辿って、誰しもが自分たちの祖先は血なまぐさい経験をしていることもちょっと思ったりしつつ、現代の僕らの演劇にできるということが、人間としてのルーツなのかな。

上村 作家自身、レバノンで生まれてフランスに亡命して、カナダに行って、それが原風景であり創作意欲の根幹になっていると思います。そういった波乱に満ちたルーツは人間であれば誰しもが持っているとして定義した上で、そ



れをどうやって人類の中の線であると同時に宇宙的な広がりを感じる全体にもなりうるか。諦観した視点から、愛することと生きること、そしてその対にある殺人と戦争に、私たちが恐れずに目を向けて闘い続けられる想像性と熱量を持てるような、そのような作品になればと思います。

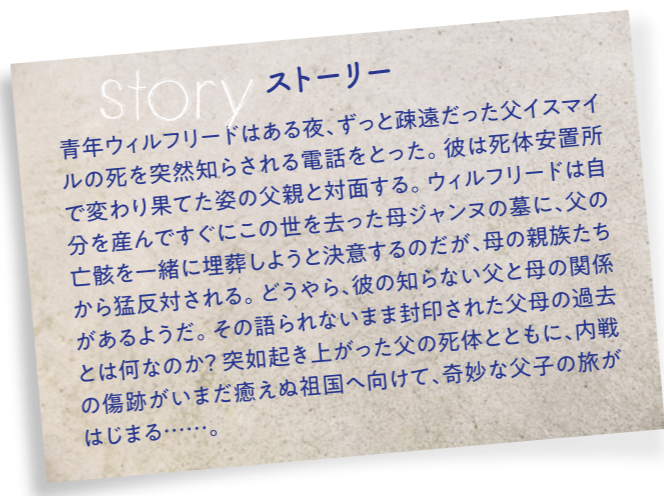
profile

◎ **上村聡史** かみむら・さとし
文学座演出部所属。2009年より文化庁新進芸術家海外留学制度により1年間イギリス・ドイツに留学。『ボビー・フィッシャーはパサデナに住んでいる』『炎 アンサンディ』の演出で第22回読売演劇大賞最優秀演出家賞、『アルトナの幽閉者』『信じる機械』『炎 アンサンディ』で第56回毎日芸術賞、第17回千田是也賞、『炎 アンサンディ』で第69回文化庁芸術祭大賞を受賞。小劇場から大劇場、古典から現代劇と幅広く活動。近年の主な演出作品に『グリークス』『弁明』『マダー・バラッド』『城塞』『中橋公館』『冒した者』などがある。シアター風姿花伝レジデントアーティストを務める。

◎ **岡本健一** おかもと・けんいち
1985年、ドラマ『サーティン・ボーイ』でデビュー。88年、男闘呼組のメンバーとしてレコードデビュー。その後、ドラマ、映画、舞台と幅広く活躍。2011年『恋人』、12年『地獄のオルフェス』で演出家としても活動。『タイタス・アンドロニコラス』で第12回、『ヘンリー六世』で第17回読売演劇大賞優秀男優賞受賞。主な舞台に『ロッキー・ホラー・ショー』『非常の人 何ぞ非常に〜奇譚 平賀源内と杉田玄白』『氷屋来る』『リチャード三世』『アルトナの幽閉者』『トロイラスとクレシダ』『二人だけの芝居〜クレアとフェリースー』『ヘンリー四世』『炎 アンサンディ』『パレード』『CRIMES OF THE HEART 一心の罪〜』など。



▲『炎 アンサンディ』の舞台から [撮影：細野晋司]



シアタートラム 2018年2月20日 [火]～3月11日 [日]

『岸 リトラル』

作 ワジディ・ムワド 翻訳 藤井慎太郎 演出 上村聡史
出演 岡本健一 亀田佳明 栗田桃子 小柳友 鈴木勝大 佐川和正 大谷亮介 中嶋朋子

2月	20	21	22	23	24	25	26	27	28	3/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
	13:00																			
	14:00																			
	18:00																			
	18:30																			

一般 6,800円 友 6,600円 友 6,300円 U24 高校生以下 3,400円

12月17日 [日] より一般発売 お問合せ：劇場チケットセンター ☎ 03-5432-1515

※未就学児入場不可

ボストン美術館 パリジェンヌ展 時代を映す女性たち

* 世田谷美術館は2018年1月12日まで、改装工事のため休館中です。 世田谷美術館

パリで生きる魅力あふれる女性たち

芸術の都パリの洗練された女性たち。彼女たちは、昔も今も人々を魅了し続けています。

「ボストン美術館 パリジェンヌ展 時代を映す女性たち」は、250年にわたって、それぞれの時代に生きたパリジェンヌの魅力をさぐるというものです。

膨大なコレクションを誇るボストン美術館の収蔵品から、絵画、彫刻、写真、ドレス、装身具など約120点で、彼女たちの華やかさだけでなく、葛藤し、自己表現を求め、強い意志を貫くなどした、パリジェンヌの生き方をも映し出します。

知的で美しいわけを、美術品で解き明かす

「パリジェンヌという言葉は、本来はパリの女性という意味ですが、おしゃれでかっこよくて、自分をしっかりと持っている女性という印象をもちます。パリジェンヌが、どうして世界中からあこがれの存在になったのかを、250年にわたる美術品から明らかにしようというのが、『ボストン美術館 パリジェンヌ展 時代を映す女性たち』です」と、本展担当の塚田美紀学芸員は語ります。

「パリという街が表舞台に出てきて、文化の中心になるのが18世紀。わかりやすくいえば、マリー・アントワネットらの時代になります。[Chapter I パリという舞台]では、

その時代に女主人が邸宅で開いたサロンや、劇場に出演した踊り子のような、早くも知的で美しい女性が活躍する姿がわかります。

そうはいつても、家庭におさまる伝統的な女性像がその後も長く求められたり、働きに出る女性や、自立しようとする女性は揶揄されたりと、さまざまに描かれた現実を、[Chapter II 日々の生活]ではとりあげます。

あこがれ誘う最新ファッション発信地

19世紀半ばになると、いよいよパリジェンヌのファッションが花開きます。服飾産業の中心になったパリは、有名デザイナーが活躍し、また女性たちが着飾って歩く流行の街になります。[Chapter III 「パリジェンヌ」の確立]では、それを絵画や版画、ドレスや小物で見せていきます。

おしゃれなパリジェンヌは、外国でもあこがれの対象になり始め、《チャールズ・E.インチズ夫人(ルイズ・ポメロイ)》では、ドレスも表情も構図もフランス風に仕立てて、ボストンの女主人を描いています。

美術界にも女性が進出し、困難を乗り越えて女性の制作者が現れます。[Chapter IV 芸術をとりまく環境]では、ドガ、ルノワール、ロートレックが描いた女性の肖像画とともに、女性芸術家、カサットやモリゾの作品が展示されます。そして、修復を終えたマネの大作《街の歌い手》が楽しめます。



▲ ジョン・シンガー・サージेंट
《チャールズ・E.インチズ夫人(ルイズ・ポメロイ)》
1887年 Anonymous gift in memory of Mrs. Charles
Inches' daughter, Louise Brimmer Inches Seton
1991.926



▲ シャルル・フレデリック・ウォルト
ウォルト社のためのデザイン
《ドレス(五つのパーツからなる)》1870年頃
Gift of Lois Adams Goldstone 2002.696.1, 3-5



▲ メアリー・スティーヴンソン・カサット
《縞模様のソファで読書するダフィー夫人》1876年
Bequest of John T. Spaulding 48.523

Photographs©Museum of Fine Arts,Boston

《街の歌い手》ゆかりの凛とした女性たち

「《街の歌い手》は、さくらんぼを食べながらギターを持って酒場から出てくる、流しの女性が描かれています。約70年ぶりの修復を経て、ドレスの色が本来のシックなグレーに戻りました。等身大に近い絵で、今では名作と評価されていますが、こうした大きな絵は王侯貴族の肖像画に用いられるしきたりがあったため、労働者階級を描くにはふさわしくないなどと当時は批判されたそうです。

これはマネが実際にパリの街角で目にした、流しの女性に魅了されて生まれた作品です。身分は高くないけれども、職業を持ち、凛とした女性像が表現されています。

モデルを務めたのはマネのミューズ、ヴィクトリーヌ・ムーランで、マネの代表作《草上の昼食》や《オランピア》



◀ エドゥアール・マネ
《街の歌い手》1862年頃
Bequest of Sarah Choate Sears
in memory of her husband,
Joshua Montgomery Sears 66.304

▼ レギーナ・レラング
《パルテ、パリ》1955年
Gift of Leon and Michaela
Constantiner 2010.429
Münchener Stadtmuseum,
Sammlung Fotografie,
Archiv Relang



◀ ピエール・カルダン《ドレス》1965年頃
Joyce Arnold Rusoff Fund 1998.436

にもモデルとして登場します。その後、ムーランは描く側になり、画家になってサロンに出品していたことが、近年の研究で明らかになりました。この作品はボストンの女性コレクターが購入し、アメリカに渡って、今にいらいます。《街の歌い手》は、まさに美しく意志ある女性たちの生き様を秘めた絵画であり、パリジェンヌ展を象徴する作品です」(塚田学芸員)

最終章の[Chapter V モダン・シーン]では、20世紀のパリジェンヌたちが新しい時代に活躍の場を広げ、行動していく姿を、ポストカード、ファッション写真、新素材のドレスなどで展開していきます。

塚田学芸員は「エレガントで美しい絵画やドレスが見られる楽しい展覧会であり、そして時代を切り拓いた女性たちの長いストーリーをたどることができる機会でもあります」と語っています。 [取材・文：北島章子]

世田谷美術館 2018年1月13日[土]～4月1日[日]

「ボストン美術館
パリジェンヌ展 時代を映す女性たち」

観覧料：一般1,500(1,300)円、65歳以上1,200(1,000)円、
大高生900(700)円、中小生500(300)円

※()内は20名以上の団体割引料金及びせたがやアートカード割引料金

開館時間 10時～18時(最終入場は17時30分まで)

休館日 月曜日・ただし2月12日[月・振替休日]は開館
翌13日[火]は休館

関連企画

レクチャー

「画家として、女として、パリジェンヌとして—ベル・エポックの女性群像」
日時：1月14日[日]14時～15時30分

講師：千足伸行(広島県立美術館 館長)
「アートとオートクチュールの緊密な関係—アメリカ女性とパリジェンヌ」
日時：1月27日[土]14時～15時30分
講師：深井晃子(京都服飾文化研究財団理事、名誉キュレーター)

トーク

「踊るパリジェンヌ—舞台上に立った女性たち」
日時：2月12日[月・振替休日]14時～15時
講師：芳賀直子(舞踏史研究家) 聞き手：塚田美紀(本展担当学芸員)

「褐色の肌のパリジェンヌ—エキゾティズムが生んだミューズたち」
日時：2月24日[土]14時～15時
講師：くぼたのぞみ(翻訳家、詩人) 聞き手：塚田美紀(本展担当学芸員)

レクチャー、トークともに 会場：世田谷美術館 講堂
定員：各日とも当日先着140名 参加費：無料 *すべて手話通訳付き

そのほか、30分で展覧会の見どころを紹介するミニレクチャーを開催。
詳細はホームページにて。

美術 Schedule

《向井潤吉アトリエ展》
■ 向井潤吉1970's—1980's 民家集大成 ▶ 12月16日[土]～2018.3月18日[日]

《清川泰次記念ギャラリー》
■ 清川泰次 平面と立体 ▶ 12月16日[土]～2018.3月18日[日]

《宮本三郎記念美術館》
■ 第4回 宮本三郎記念デッサン大賞展「明日の表現を拓く」
▶ 12月16日[土]～2018.3月18日[日]

*このほかにも様々なプログラムを行っています。ホームページ、チラシなどをご覧ください。

ミロコマチコ いきものたちの音がきこえる

開館時間 10時～18時(展覧会入場及びミュージアムショップの営業は17時30分まで)

休館日 毎週月曜日(ただし、祝・休日の場合は開館し、翌平日休館)

世田谷文学館

ミロコマチコ インタビュー

もっと絵と言葉の力を信じていい

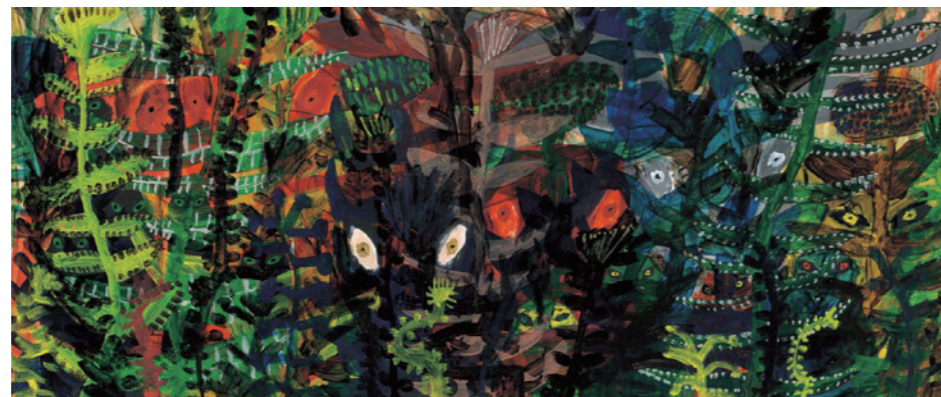
駆け抜ける線、踊り出す色、画家として、絵本作家としてののちを伸び伸びと描くミロコマチコさん。世田谷文学館では、ミロコさんの展覧会「いきものたちの音がきこえる」を、2018年1月20日から開催します。絵画や立体、代表作の絵本原画など、150点以上の作品に最新作を加えた、ダイナミックなライブ感あふれる展示です。

絵本がたくさんある家でした

「ちっちゃいときは特別だと気づいていなかったんですけど、とても絵本がたくさんある家でした。あんなに絵本がある家は、なかなかなかったと思うんです」と絵本の思い出を語るミ



《パンをたべるミケ》2016年



『けもののおいしがしてきたぞ』(絵本原画) 2016年



『オレときいろ』(絵本原画) 2014年



『ホッキョクグマ』2015年 アルフレックスジャパン蔵

ロコさん。年長のいところが多かったことで、読み終えた絵本がミロコさんの家へ集まってきたそうです。

「親が買ってくれたものではないので、特に傾向もなく。いろんなジャンルの絵本が集まってきたって感じです」

「寝る前には父親が絵本を読んでくれていたんですけど、日中は一人で本と遊ぶ時間が多かったように思います。読むだけでなく、電車を走らせる道として本を並べて使ったり。けっこう、絵本とたわむれる子ども時代だったと思います」

好きだった絵本もさまざま。ミロコさんが思い出深い本として挙げたのは、『ぼちぼちいこか』(作:マイク・セイラー 絵:ロバート・グロスマン 訳:今江祥智)、戦争を描いた『まちんと』(作:松谷みよこ 絵:司修)。バーバパパや五味太郎もお気に入りだったとのこと。

「めっちゃ好きだったのは、『じごくのそうべえ』(絵・文:田島征彦)、『しばてん』(絵・文:田島征三)。がっとう勢いがある、強いものが好きだったみたいです」



ルールがなく、自由になれる場所

振り返ると、絵本の幅広さに触れていたことが大きかったと話すミロコさん。

「いろんな絵本があったから、私が好きなように描いても受け入れてもらえるって思えたんじゃないかな。これをやってはいけないというルールがない。絵を描いていない時間の私は、めちゃくちゃ小心者なんです。でも、絵だけは大胆にできたから、すごく気持ちがよくて、それを続けたいと自然に考えられたんです。絵に集中しているときは、自分が生きているっていう実感があって、だから、絵を描くことはこれからも絶対にやめないとします」

「絵と言葉で、もっとできるなにかがある。もっと絵と言葉の力を信じていい」と語るミロコさんが、においがするような絵本を作ってみようと試みたのが、『けもののおいしがしてきたぞ』(岩崎書店)。

「絵と言葉で、におってくるものを作りたいなど、『においがしてきたぞ』という言葉で、みんなの意識が変わったり、想像しておいしがしてきたりすることに挑戦しようという感じです。それには私の力が必要だと、めっちゃ気合いを入れました」

絵本は感じてくれるだけでいい。心が動かされれば、絵本のことは忘れてしまっても、ふと、けもののおいや気配を感じたり、気になった言葉や色が浮かんだり、その子の中に入ったものが、別のなにかにつながっていく

から。そうした確信を、ミロコさんは抱いています。

身近なものがぶっとんでいっちゃう

行きと帰りは違う道を歩く、直感で動く、見る聴く以外の力も大切にする。小さなことが絵本の種になるので、感じることに敏感でありたいと話すミロコさん。感じる心があれば、日常生活の中にも、たくさんのおもしろさがあると云います。

「ただ気づいていないだけだと思うんです。そういうおもしろさに気づいて、『絵本にしてやるぞ、ふふふ』って思っているの、すごく楽しいですよ」

このような眼差し的一端は、土の一粒ひとつぶをいきいきと描いた『つちたち』(学研教育出版)などの絵本に見られます。

「すごい刺激がないとおもしろくない、というふうにはなりたくないですね。絵本も壮大なファンタジーより、『身近なものなのに、ぶっとんでいっちゃう』みたいなことのほうがおもしろいかなあーって思ったりしています。

そういうことを想像するのが、自分は好きなんです。なんで好きかと聞かれても、自分のことはわからないんですけど。いつか、『あー、なるほど』って、わかったらおもしろいですね」

[取材・文:北島章子] [撮影:関口淳吉]

profile

◎ ミロコマチコ

画家・絵本作家。1981年、大阪府生まれ。

いきもの姿を伸びやかに描き、国内外で個展を開催。2012年に出版した最初の絵本『オオカミがとぶひ』で日本絵本賞大賞を受賞。2作目の『ぼくのふとはうみでできている』で小学館児童出版文化賞、3作目の『てつぞうはね』で講談社出版文化賞絵本賞を受賞。15年、『オレときいろ』でプラティスラヴァ世界絵本原画展(BIB)金のりんご賞、17年、『けもののおいしがきたぞ』で同展金牌を受賞。近作の絵本に『まっくらやみのまっくら』など。

ミロコマチコ いきものたちの音がきこえる

2018年1月20日[土]～4月8日[日]

観覧料:一般 800(640)円、高校・大学生、65歳以上 600(480)円
障害者手帳をお持ちの方 400(320)円、中学生以下無料
※()内は20名以上の団体料金及びせたがやアートカード割引料金
※1月26日[金]は65歳以上無料

文学 Schedule

■ コレクション展 SF・再始動 ▶ 開催中～2018.4月8日[日]

■ 次回企画展 林芙美子 貧乏コンチクショウ ▶ 2018.4月28日[土]～7月1日[日]

※『ミロコマチコ いきものたちの音がきこえる』会期中には様々な関連企画が行われます。世田谷文学館ホームページ、チラシなどでご確認ください。

赤をめぐる旅 祝いの水引結び

生活工房

生活工房では本年度、衣服造形家の眞田岳彦さんとともに、「赤をめぐる旅」シリーズを続けています。2017年4-5月に開催したvol.1は、日本の伝統色「赤」の多彩な表現に着目し、その原材料をはじめ、染織、江戸化粧など様々な領域の専門家のお話とともに紐解く企画展でした。そしてvol.2のテーマは「祝いの水引結び」。本展のために日本各地を旅した紀行文を、眞田岳彦さんに寄せていただきました。展覧会では、紀行文に登場する各地域の方々の作業に関わる画像や水引の実物などが展示されます。

祝いの赤をめぐる土地と人 眞田岳彦

「赤をめぐる旅」vol.2では、日本に継がれる「水引」の伝統に目を向けながら、東京(日本橋)、長野(飯田市)、石川(金沢市)、福井(越前市)、京都(下京区)の取材を通じて、地域の風土や自然に育まれた、日本の衣服／繊維文化における「赤と祝い」の物語を探っていきます。

水引は、日本の衣服文化の中でも特殊な糸で、主に冠婚葬祭の場で使用されてきました。特に「赤」の水引は、祝いの品に特別な結び方を施すことで、生活の中で祝いの気持ちを伝えています。では、なぜ、中国やアジア諸国にも類のない、日本独自の「赤」を祝いの象徴とするこの繊維文化が生まれたのでしょうか。

今回の旅は、日本で独自の発達をしてきた祝いの糸「水引」の理解を深めるために、まずは東京日本橋で創業200年を超える和紙の老舗「榛原」を訪ねました。千代紙を生かした小物の品々の華やかさは江戸の伝統を感じさせます。

明治以降、百貨店や企業、お得意先に依頼された祝いの水引の考案図を拝見しました。祝儀袋などの熨斗に千代紙を用いた図案には、関西の公家的な祝いとは異なる、江戸で生まれ武家的な祝いの表現が見られ、江戸に生きた人々の美意識と粋を感じます。



創業200年「榛原」東京(日本橋)

「三州街道」幾重にも重なる山並み風景



「元結文七の碑」長野(飯田)

創業140年「水引屋 大橋丹治」長野(飯田) 一つ一つ水引を結ぶ

日本における水引産地は飯田、伊予、京都の三地域であり、現在も飯田はその多くを産出しています。飯田市内へは、幾重もの山を越えて到着。四方を山に囲まれたこの城下町で、本格的な和紙造りが始まったのは、飯田藩主、掘親昌が烏山から移封してからと言われています。元結製造の技術を導入した「文七元結」が江戸の相撲や吉原などで髪を結う際に使われ、美しさと丈夫さで人気を博しました。

飯田では、創業140年の大橋丹治株式会社と、長年製造に携わる神明堂を訪ねました。神明堂の工場には大型の水引製造機械が並びます。白い水引の糸が巻かれたドラムが縦横128個設置され、各ドラムから引き出されて機械に入ると半分が赤に着色されます。乾燥機械へと流れ、瞬時に乾いた赤白の長い紙糸は、3台目の機械で指定の長さに裁断され水引糸の原型が完成。4台目の機械で赤白に色分けされた5本ごとの糸に、1cm幅程の金色などの紙を巻いて完成です。このように製造する企業も現在では減り、手引きで製造している工場も殆どなくなったそうです。しかしながら、この技術と生水引は、魅力あふれる和紙の糸としての可能性を持っているように感じました。

加賀水引(石川県)、京水引(京都府)、越前和紙(福井県)で水引を作る方々にもお会いしました。

金沢で訪ねたのは、創業100年の津田水引折型です。贈答品の包み方、水引の結び方、表書きの文字まで吟味してつくる美しい水引からは、作り手の心づかいが伝わります。和紙を立体的に表現する包み方は、初代から受け継がれる独自のもので、他の地域では見ない豊かな魅力が

創業115年「神明堂」長野(飯田) 自社工場128個の水引元紙縫糸



創業100年「加賀水引 津田水引折型」石川(金沢)



「大瀧神社・岡太神社」福井(越前) 創建1500年と言われる紙の神を祀る



あります。

福井の越前市では「越前和紙の里」を訪れました。ここには現在も多くの和紙製造に関わる人たちが暮らし、日本で唯一の紙の神を祀る1500年の歴史を持つ大瀧神社・岡太神社があります。訪ねた池田水引では、制作に一番大切なのは「生きている水引を作ること」とうかがいました。松竹梅や鶴亀の豪華な水引は、心を込めたその端正な造形に、和紙を生みだす地としての生命力を感じることができます。

水引発祥の地・京都に、創業180年の大嶋雁金屋を訪ねました。京都製造の水引糸による水引結びは、衣服用の糸を巻いて作る色水引で、丈夫なうえ色落ちもありません。太さも段階があって、細く繊細なものや、太く張りがある造形も可能。大嶋さんは古い文献を調査し、そこに描かれた伝統の形や仕来りを参考に、現代に生かす形を求めています。そこには、これからの日本の祝いに伝承されるべき大切な思いと雅な美しさがありました。

私は旅をしながら、日本人にとって「祝い」とは何かを幾度も考えました。文字を紐解くと「いおう」は「イ+ワウ」であり、「イ」とは「斎」で、穢れを祓い清純、清心になることなどをさし、ワウは進展するという意味を持つと言われます。この文字に込められた意味に思いを馳せると、旅で出会った人たちの生きる姿が

浮かんできます。私はそこに、心の清らかさを伝えるための白と、生命の息吹を写しだす赤を合わせ、人と人を喜びでつなぐために、この国の人々が育んできた「祝いの赤」の観念を感じずにはいられません。



創業180年「大嶋雁金屋」京都

めぐった祝いの赤



profile



◎ 眞田岳彦 さなだ たけひこ

衣服造形家、SANADA Studio inc. 主宰 女子美術大学特任教授、東北芸科大学客員教授。日本の衣服・繊維研究と造形活動を行う。ISSEY MIYAKE INC.にて衣服を学び、92年渡英。彫刻家RICHARD DEACONの助手を経て95年帰国。SANADA Studio 設立。国立民族学博物館外来研究員などを経験し、国内外の美術館・ギャラリーで衣服/繊維作品発表、染織・地域プロジェクト、企業のアート&デザインディレクションなど行う。著作「IFUKU 衣服」(六耀舎)、「考える衣服」(スタイルノート) ほか

生活工房ギャラリー

眞田岳彦ディレクション／衣服・祝いのかたち vol.2 赤をめぐる旅「祝いの水引結び」

12月20日[水]～2018年2月4日[日]
9時～20時 *12月29日～1月3日は年末年始休館

入場無料 【企画制作】SANADA Studio inc.

生活デザイン Schedule

■「みっける365日」展 ▶ 2018.2月24日[土]～3月18日[日]

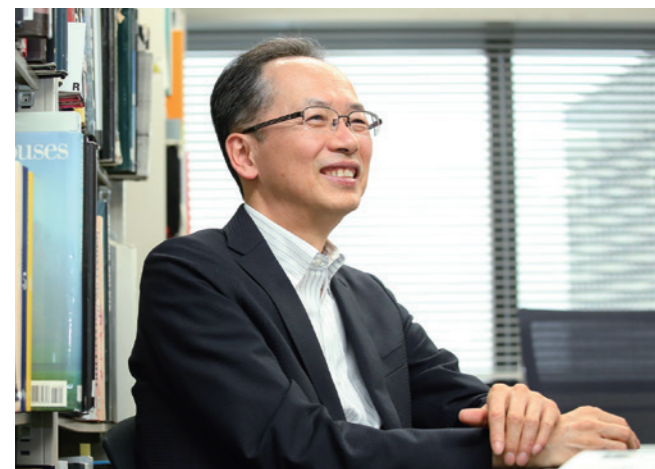
※このほかにも様々なプログラムを行っています。ホームページ、チラシなどをご覧ください。

異分野とのコラボレーション お話と音楽で贈る「建築と音楽」

様々な分野のエキスパートをゲストに招いて、池辺晋一郎「せたがや」音楽監督とお話と生演奏を楽しむシリーズ。今回は「建築」がテーマ。形そのものの建築と、形がない音楽。どんな話が聞けるのでしょうか。ゲストとしてお迎えする建築家の澤岡清秀さんに、お話をうかがいました。

いい音楽といい空間、それはとても幸せな時間

——池辺音楽監督とは昔からのお知り合いだそうです。
澤岡 もう35年くらいになります。私の妻は俳優座の女優で、池辺先生は演劇の音楽を担当なさっていたので、僕より先に妻が知り合いました。家族同士で食事をして以来、親しくさせていただいています。
——おふたりは話が合ったのですか。
澤岡 池辺先生は助手の方に、「澤岡ってというのは、やたら音楽に詳しいんでびっくりした」って、言っていたらしいです。



「異分野とのコラボレーション」前回公演の様子



僕はバイオリンとピアノを習っていて、中学からコンサートに通うことをおぼえました。もらったチケットで、東京文化会館ヘイゴリ・マルケヴィチが指揮した日本フィルのオール・ワグナーに行ったのが最初で、オーケストラの生の音に感動してはまってしまい、留学時は、小澤征爾さんが音楽監督だったボストン交響楽団やメトロポリタンオペラハウスなどにも行きました。
——池辺音楽監督とお仕事をしたこともあったようですが。
澤岡 楨総合計画事務所南青山のスパイラルの設計を担当したとき、ホールのプロデュースも頼まれて芸術監督の佐藤信さんと「ヴェデキントの『ルル』を、ミュージカル風にやってみよう」と意気投合しました。1986年に『忘れな草』という題名で上演し、ルルは山口小夜子さん、脚本は岸田理生さん、音楽は池辺先生。僕はプロデューサーとして、制作スタジオまで押しかけてお願いしたのですが、とってもいい音楽を書いてくださいました。
——どんな方だと思いますか。
澤岡 仕事のときもオフのときも、いつも明るくて変わらないですね。まるで落ち込んだことがないがごとく、楽しく仕事をなさっている。超人的ですね。

——音楽と建築の結びつきというと、まずホールが思い浮かびます。

澤岡 いい演奏会を思い出すと、それを聴いたホールの情景も浮かんできます。ニューヨークのカーネギーホールは有名ですが、音響もすばらしいですよ。88年にバーンスタイン指揮のウィーンフィルを聞きに行きましたが、ホールが鳴りまくっていました。

——いいホールでは、かならずいい演奏になるということはないですか？

澤岡 残念ながら、そうはなりません、いい音楽がいい空間になると、まちがいないいい結果を出します。それは、とても幸せな時間です。

最近できたホールでは、フィルハーモニー・ド・パリがおすすすめです。おしゃれで気持ちがよくて、入っただけでいい音が聞こえてきそうでした。

形でいうと、楕円形のホールは、二重焦点になるのでよくないと言われています。でも、アムステルダム・コンセルトヘボウのなかの小ホールは楕円形ですが、演奏も音もよかったです。音楽と建物には、謎がまだまだたくさんあると思います。
——建築と音楽、異なるようでいて、共通するものがあるようですね。

澤岡 音楽は時間芸術、建築は空間芸術と言われてます。時間も空間もつかみどころがないものですから、わかりやすい単位を与えたいですね。リズムは時間の中の単位ですが、建築も同じで、たとえばある規則性をもたせて柱を配置すると、空間にリズムが表れます。

また、最初のモチーフをどう発展させて、ひとつの曲にまとめていくかが作曲では大切ですが、建築も同様です。どちらも、モチーフを繰り返したり、置き換えたり、逆にしてみたりという試み。部分が発展して全体を構築し、全体がいいと部分のよさも引き立ちます。作曲を英語で「コンポジション」と言いますが、建築も空間構成を「スペーシャル コンポジション」と言い、構成するという意味では同じです。

音楽が次々と展開して流れるように、建築物を造るときも、外からエントランスに引き入れ、ちょっと急いで廊下を通り、こんな窓や壁に囲まれて時間を過ごし、階段を昇って屋上にあがる……と、展開を考えて設計します。同じ曲や同じ場所で、100年前の人と同じ経験をする。でも、人が違えば感じることも少しずつ異なる。そんなところも音楽と建築は似ていると思います。

[取材・構成：北島章子] [撮影：宮川舞子]



澤岡氏設計：工学院大学 Student Center

Vol.10 せたがやジュニアオーケストラ(SJO)通信

去る10月1日[日]に行われたオータムコンサート、大盛況の中無事に終了いたしました！ 同月22日[日]には、都立蘆花恒春園にて第5回烏山地域蘆花まつりにSJO管打楽器パートが出演予定でしたが、梅しきも台風で開催中止に。しかし、雨続きの中でもめげずに練習してきたこれまでの頑張りメンバー各々の力となり、2018年3月31日[土]に控えている定期演奏会に向け、しっかりと再出発が

できました。
さて、3つの難曲に挑む定期演奏会に向けて、現在はパート練習を徹底的に行っています。パートごとに分かれて、講師の方からしっかりと教えていただける大切な時間。難しい曲だからといってへこたれることなく、メンバーは一生懸命練習しています！ 本番日までますます成長していくことでしょう♪ 8年目の集大成を、どうぞご期待ください！



せたがやジュニアオーケストラ 第8回定期演奏会
3月31日[土]15時 世田谷区民会館
[出] 田中祐子(指揮) せたがやジュニアオーケストラ
[曲] W.A.モーツァルト：交響曲第25番ト短調 K.183
／ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲第1番(ソリスト：大谷真結子(卒園生))／レスピーギ：交響詩「ローマの松」ほか
全席指定 1,000円 [12月18日(月)より発売開始] ♿

profile

澤岡清秀 さわおか・きよひで

建築家。東京大学、ハーバード大学大学院にて建築を学ぶ。ケビン・ローチ、リチャード・ロジャーズを経て横文彦に師事。横事務所在籍中に、京都国立近代美術館、スパイラル、津田ホール等を担当。独立後、大学教育施設の設計に関わる。コロンビア大学、テキサス大学にて招聘教授。現在、工学院大学教授。東京大学から博士(環境学)。08年日本建築家協会優秀作品選、09年東京建築賞優秀賞など受賞。劇場・ホールに関する著書・研究もあり、海外の歌劇場を巡るのが趣味。

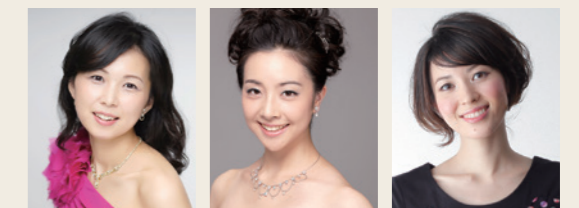


池辺晋一郎 いけべ・しんいちろう

作曲家。日本音楽コンクール、尾高賞などの受賞のほか、映画、テレビ等の附帯音楽分野での受賞も多数。2004年紫綬褒章受章。主要作品は交響曲No.1～10、オペラ《死神》《高野聖》ほか。演劇音楽はこれまでに約500本を担当している。現在、東京音楽大学客員教授、東京オペラシティ・ミュージックディレクター、横浜みなとみらいホール館長等を務める。せたがや文化財団音楽事業部 音楽監督。



異分野とのコラボレーション お話と音楽で贈る「建築と音楽」 2018年3月2日[金]19時 成城ホール



宮谷理香 ©Akira Muto 小林沙羅 ©Hitoshi Iwakiri 河野紘子
[出] 澤岡清秀(建築家/お話) 池辺晋一郎(作曲家/お話・ピアノ)
宮谷理香(ピアノ) 小林沙羅(ソプラノ) 河野紘子(ピアノ)
[曲] モーツァルト：交響曲第41番「ジュピター」より(ピアノ連弾版)
ムソルグスキー：組曲「展覧会の絵」より「キエフの大門」
アルマ・マラー：歌曲より ほか
一般 3,500円 友 3,200円 ※未就学児入場不可 ♿

地域の物語ワークショップ2017

「地域の物語」とは、地域に暮らすさまざまな人々と向き合い、物語を掘り起こしながら、従来の形にとらわれない演劇をつくりあげるワークショップです。世田谷パブリックシアターが開場した1997年から継続しています。2017年9月には、2016年度のコースを担当していた進行役たちが集まり、＜女性編＞＜男性編＞コースの合同編を企画。＜夏の終わりの夕涼み編＞と題し、性自認が女性の方、男性の方、どちらでもない方など、いろいろな方が集まって、あらたな「生と性をめぐるささやかな冒険」を始めました。進行役のおひとり、花崎撮影さんにご報告いただきます。

『生と性をめぐるささやかな冒険』
＜夏の終わりの夕涼み編＞

2017年9月4日[月]、7日[木]、8日[金] (全3回)
進行役：柏木陽、関根信一、花崎攝、山田珠実

＜夏の終わりの夕涼み編＞はトイレットペーパー・アートで始まりました。トイレットペーパー・アートなんて、そんなジャンルがあるのかなのか定かではありませんが、思いついて初めてやってみたのです。今回のワークショップのテーマは「曲がり角」でした。参加者のみなさんに、どうやって「曲がり角」についてのイメージを膨らませ、「曲がり角」についてのエピソードを表現してもらおうか？ そうだ、手始めにこれまでの人生を思い出し、トイレットペーパーで自由に表現してもらったらどうだろうと思ったのがきっかけです。

人生は道に例えられます。トイレットペーパーは長く、直線ですが、簡単に折り曲げたり、破いたり、切ったり、丸めたりすることもできます。作業が始まると、あっという間に予想をはるかに超える圧巻の光景が出現！ 稽古場中に参加者の人生を表すトイレットペーパー・アートが張り巡らされました！ まさかこれほど参加者の方たちの創造力がはじけるとは！

そして2日目には、「曲がり角」にまつわるエピソードを発表してもらいました。出産時の話あり、恋人との別れ、在



▲「ジェンカ」をアレンジしたダンス



▲トイレットペーパー・アート

日女性との結婚の話あり、親子関係もあればED治療の話あり、未来にやってくるかもしれない子どもへの手紙にホスピスの話。期せずして、ひとの一生にわたる出来事の数々がエピソードとして語られました。並行して、ダンスも踊りました。懐かしの「ジェンカ」です。私は永六輔作詞、坂本九歌の「レッツ・キス 頼寄せて…」にはどうも苦手意識を持っていたのですが、なかにし礼作詞、青山ミチ歌のヴァージョンは、パンチが効いていて媚がなくカッコイイのです。振り付けをアレンジして、みんなで息を切らして踊りました。

そして3日目。ささやかな稽古場発表をしました。2日目の発表のなかから、参加者にシーンにしたいエピソードを選んでもらい、チームを作り練習しました。どうしたらそのエピソードがよりよく伝わるか、食事の時間も惜しんでギリギリまで工夫されていたみなさんの姿が印象的でした。直前のお誘いだったにもかかわらずお客様にもお越しいただき、わずか3日で作ったとは思えないなかなかの発表になりました。

正直なところ、私は合同編に少し不安を抱いていました。これまで男性編と女性編は発表の時以外は別々にワークショップを重ねていました。合同編になってもこれまでのようにのびのびと表現できるだろうか？ ヘテロの人もいれば、LGBTの人もいる。以前からのリピーターもいれば、今回初参加される方もいる。ギクシャクすることはないだろうか？ ところが始めてみると、それは全くの杞憂でした。もちろん合同編への参加を希望された方たちだったからという条件付きですが、これまでの積み重ねのなかで、セクシュアリティについて隠す必要のない場、初めてでも臆することなく表現できる場になってきている手応えを感じました。多様な人たちと一緒に作業できることはどんなに豊かなことか！ とても有難く感じています。

[文：シアタープラクティショナー 花崎 攝]

●地域の物語2018『生と性をめぐるささやかな冒険』発表会
2018年3月18日[日]
会場：シアタートラム
出演：ワークショップ参加者
※詳細は決まり次第劇場ホームページでお知らせします。

世田谷パブリックシアター

不朽の名作がアジア演劇の最前線として新たな息吹が吹き込まれる
日韓文化交流企画『ペール・ギュント』制作発表会

10月24日、世田谷パブリックシアター+兵庫県立芸術文化センターの共同制作公演『ペール・ギュント』の制作発表会が行われた。日韓文化交流企画と銘打たれたこの公演は日本キャスト15人と韓国キャスト5人が出演。制作発表では上演台本と演出を手掛けるヤン ジョンウン、日本キャストから浦井健治、趣里、浅野雅博、マルシア。韓国キャストからヤンが芸術監督を務める劇団旅行者(ヨヘンジャ)に所属のキム デジンと、舞台・映像で活躍するユンダギョンの2人が登壇した。

稽古開始から1週間が過ぎた、この日の会見でヤンは「日韓の役者とスタッフの間には演劇によってボーダーレスな関係が生まれ、すでに《劇団ペール・ギュント》として出発している」と両国のキャストと笑顔で語り合う。「作品の主題である『自分探しの物語』が、作品に関わるすべての人の物語であり、混乱した現代を生き抜く自分を発見する物語にもなる。この旅路がどこへ行くのかワクワクしている」と期待を膨らませた。

ペール・ギュント役の浦井は「オープンマインドの稽古場は新鮮で、遊びのようであり、またある意味修行のよう。国境を超えてイブセンが描いた『自分



探し』のいちばん大事にしているところにたどり着きたい。日韓合同公演のエネルギーが皆さんに伝わるといいな」と抱負を述べた。ペールの恋人ソールヴェイ役の趣里は「言葉の違いを超えたエネルギーはお客様に伝わるはず。自分探しの旅にみなさんも参加してほしい」と続ける。言葉の壁が心配だったというソールヴェイの父役などを演じる浅野雅博は「韓国チームが愛に溢れ、僕の心配は杞憂でした。ヤンさんは心に熱いマグマが燃えている。ヤンさんの鍋でぐつぐつ煮えて、楽しさと苦しさを分かちあいたい」と笑顔で語る。そして韓国版『ペール・ギュント』にも出演してきたキム デジンは「再び演じるのは大変ですが、新しいものを作りたい。期待と怖さもありますが、素敵な仲間と出会えて嬉しいです」と喜びを述べた。また、日本に影響を受けてきたというユンダギョンは「日本の俳優と一緒に仕事をするという夢が叶った。稽古場では、言語、年齢、性別、国境などを乗り越えて伝え合っている。互いの人生を祝福しあう舞台にしたい」と

熱く語る。ペールの母親オーセ役などを演じるマルシアは「稽古で魂から生きて自分をさらけ出す作業を繰り返し、毎日筋肉痛です。ペールは旅をしますが、私自身も毎日旅をしているよう。想像を超える舞台になると思うので、遊園地に来た気分楽しんでください。『愛してる!』と会場を沸かせた。

12月6日の世田谷パブリックシアターでのプレビュー公演から、12月31日の兵庫県立芸術文化センターでの大千秋楽まで、《劇団ペール・ギュント》は祝祭に満ちたエネルギー溢るる舞台を展開する。

[撮影：宮川舞子]



12月6日[水]～24日[日]
世田谷パブリックシアター
原作：ヘンリック・イブセン
上演台本・演出：ヤン ジョンウン
出演：浦井健治 趣里
ユンダギョン マルシア ほか
[当日券あり]
お問合せ：劇場チケットセンター
☎03-5432-1515

『チック』

評・中井美穂 [アナウンサー]

一緒に人生の旅に出た『チック』での演劇体験

『チック』は多くの方に観ていただききたかった作品です。お客さんを巻き込みながら、役者が自由に軽やかに『チック』の世界観を作っていくところがすばらしい。同時期に映画が公開されました。映画は『50年後のボクたちは』というまったく異なるタイトルなので最初はわからなかったのですが、両方を観て、私は演劇の方が好みでした。演劇は時空を超えますし、時間も超えます。舞台の上の役者たちが観客を信じさせることができれば、なんでもできるというのが演劇の強みだと思いますが、『チック』はすべてが活かされていたと思います。

14歳の風変わりな二人の旅についていけないのではないかと考えていましたが、気がついたら自分も一緒に旅をしていました。甘くて懐かしい、それなのになぜか悲しくなる、一言で表現できない感情になります。ドライバーの運転席を客席最前列の一部に作ったことも大きい。役者の表情が見えなくなるので、勇気がいったと思いますが、否応なしに巻き込まれていました。シアタートラムという空間だからこそ



の技だだと思いますし、小屋のよさと作品の相性と演出がぴったりとはまった作品だったと思います。

チックが何者なのかというも作品世界に引き込まれた理由の一つかもしれません。チックは転校生としてやってきます。転校生の役割は日常に風穴を空けるとか、物事を見る目を飛躍的に引っ張ってくれる出会いをくれる存在だと思いますが、チックとは、実は多感で繊細な子にしか訪れない成長を手助けする精霊が姿を変えて現れたのか、神様が妖精なのか、神様が妖精なのか、思わず深読みしたくなりました。不思議な存在を柄本時生さんが見事に演じていました。

演出の小山ゆうなさんは、ご自身で翻訳

2017年8月13日～27日
シアタートラム

原作：ヴォルフガング・ヘルンドルフ
上演台本：ロベルト・コアル
翻訳・演出：小山ゆうな
出演：柄本時生 篠山輝信
土井ケイト あめくみちこ 大鷹明良

ができることが強みだと思います。小山さんの自由な発想が舞台全体に活かされていました。ベテランの大鷹明良さんとあめくみちこさんはお父さんとお母さんの役だけでなく、大鷹さんにいたっては子どもの役まで演じていました。お二人とも変貌自在に遊び心を持って作品世界を広げて、すばしかったです。土井ケイトさんも風貌を活かした役を、篠山輝信さんもあれだけ膨大な台詞を見事に表現されていました。

ドイツの聞き慣れない地名がたくさん出てきますが、基礎知識がなくても誰もおいていかない作品に仕上がっていたところもポイントです。高尚過ぎてよくわからないということはまったくなく、8月にシアタートラムで観るにはふさわしいとてもいい企画でした。レパトリーにしてぜひ再演をしてほしいです。(談)

[撮影：細野晋司]

『MANSAI◎解体新書 その式拾七』

『古事記』～神々のマジカルミステリーツアー～

評・稲葉俊郎 [東京大学医学部付属病院 循環器内科]

2017年8月23日 [水]
世田谷パブリックシアター

企画・出演：野村萬斎
出演：三浦佑之 こうの史代

MANSAI◎解体新書は野村萬斎さんによるトークメインの人気企画。もちろん、演劇や舞踊は体験がすべてです。ただ、心身を感じる体験に頭がついていかないことがあります。なぜわたしたちは感動するのだろう、と。自分のことながら、自分自身が謎に満ちた広大な空間です。頭と体をなめらかに接続させるためにも、この解体新書は大切な時間です。いつも激しく情熱的な演劇や舞踊の舞台となる世田谷パブリックシアターにとっての休息の時間としても。

自分は『MANSAI◎解体新書 その式拾六』『場』～音と時空のポテンシャル～に、音楽家の大友良英さんと出演させていただきました。舞台から見る世田谷パブリックシアターは、蕨のようで洞窟のようで子宮のようで秘密基地のようで、場がひとつの生命体のように感じられました。テーマは音と時空。人が発する音や声により時空間はつな

ぎあわせられ、場はいのちを受胎し、一期一会で訪れた全員がひとつの共通体験をします。伝統と革新を高い次元で紡ぎ続ける萬斎さんの問いかけは、好奇心とチャレンジ精神に溢れ刺激的でした。『子午線の祀り』の朗読と音楽でのジョイントも即興で行い(自分はパーカッションで参加しました)、共有した一回性の体験は、一期一会の体験として自分の心身にも深く刻印されています。

今年の『MANSAI◎解体新書 その式拾七』は、『古事記』～神々のマジカルミステリーツアー～。古事記に関する多数の著作を持つ三浦佑之先生と、日本の漫画界を新しい力学で牽引し続ける、こうの史代さんとの鼎談。古事記(ふることのみ)は日本神話ですが学校教育で学ぶ機会が少なく、多くの人



『MANSAI◎解体新書 その式拾七』

は先入観なしに神話と一対一で対峙できるとも言えます。古事記には神々という役者が演じる物語としてしか心に収めることができなかつたリアリティがあり、神話は古代人の感性で接しないと扉を開けてくれません。三浦先生の膨大な知識に基づく深い解釈と、こうのさんのほとぼるイマジネーションとが出会い、萬斎さんが触媒となり化学反応を促進させていました。3人の組み合わせ(Triad)は、造化の三神として最初に登場する三柱の神(天之御中主神<あめのみなかぬしのかみ>、高御産巢日神<たかみむすひのかみ>、神産巢日神<かみむすひのかみ>)のように、わたしたちを古代の扉の入り口までタイムマシンに乗せて連れて行ってくれました。

古事記を含めた古代からの流れの中に、神事や伝統芸能も生まれています。演じ手と観客とが時空をつなぐ舟となり、身体言語でバトンを渡しながら、古代と現代とが劇場で結び合われます。MANSAI◎解体新書は、人間が持つ魂の発露としての表現の歴史の流れの一端を、束の間の夢のように体験させてくれる豊かで贅沢なひと時なのです。 [撮影：森日出夫]



『MANSAI◎解体新書 その式拾七』

* THEATRE

第5回世田谷区芸術アワード“飛翔”舞台芸術部門受賞記念公演
シアタートラム ネクスト・ジェネレーション Vol.10
to R mansion『The Wonderful Parade』



1月13日[土]～15日[月]
シアタートラム

〔作・演出〕 to R mansion
〔共同演出・照明〕 パスカル・ラーズリ
〔出〕 上ノ空はなび ほか

入場整理番号付自由席
 一般 3,500円 友 3,300円
 友 3,000円 [アビュ] 3,000円
 親子ペア 4,000円(一般1枚+高校生以下1枚)
 U24 1,700円 高校生以下 1,000円

	1/13 木	14 金	15 土
11:30		●	
14:30			◎
15:30		●	
19:30	★	●	

★プレビュー公演
○アフターイベント 出演:小春(チャラン・ポ・ランタン) ※未就学児のみでの入場は不可。

爆笑寄席●てやん亭
『新春! 柳家権太楼一門会』

1月20日[土]14時
世田谷パブリックシアター

〔席亭・プロデュース・解説〕 花井伸夫
〔出〕 柳家権太楼 柳家甚語楼 ほか

全席指定 一般 3,500円
友 3,300円
U24 高校生以下 1,700円



柳家権太楼

こまつ座&世田谷パブリックシアター 『シャンハイムーン』
2月18日[日]～3月11日[日] 世田谷パブリックシアター

〔作〕 井上ひさし 〔演出〕 栗山民也
〔出〕 野村萬斎 広末涼子 鷲尾真知子 土屋佑壱 山崎一 辻萬長

12月10日[日]より一般発売 詳しくは P2

『岸 リトラル』 2月20日[火]～3月11日[日] シアタートラム



〔作〕 ワジディムワウド
〔翻訳〕 藤井慎太郎
〔演出〕 上村聡史

〔出〕 岡本健一 亀田佳明
栗田桃子 小柳友
鈴木勝大 佐川和正
大谷亮介 中嶋朋子

12月17日[日]より一般発売

詳しくは P4

チケットの購入方法

世田谷パブリックシアターチケットセンター 世田谷パブリックシアター／シアタートラムと音楽事業部の公演チケットを取り扱っています

電話予約
03-5432-1515
(10時～19時 年末年始は除く)

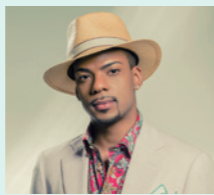
窓口
キャロットタワー5階
(10時～19時 年末年始は除く)

オンライン
(要事前登録・登録料無料)
(年中無休・24時間対応)

PC・スマホ → <http://setagaya-pt.jp/>
携帯 → <http://setagaya-pt.jp/m/>

* MUSIC

～音楽は自由をめざす vol.3～
『何故に私は日本で歌い続けるのか?』



ジェロ



オルリコ

1月21日[日]14時 烏山区民会館
子どもの頃から日本の演歌に親しんできたジェロにとって、おばあちゃんの祖国である日本に渡り、演歌を歌い続けることは運命だったのかもしれない。日本で歌い続ける理由・曲への想いを歌手のみなさんにお伺いしながら進行する新たなスタイルのコンサートです。

〔出〕 ジェロ 大城パネサ オルリコ

一般 1,000円

※未就学児入場可(ひざ上のみ無料)

せたがや名曲コンサート『ラ・ボエーム』

2月4日[日]14時 昭和女子大学人見記念講堂

故芥川也寸志氏の呼びかけで結成された2つの区民団体が、1989年から毎年開催している演奏会。若手演出家、若手ソリストで彩る「青春オペラ」をセミ・ステージ形式で上演します。新しいオペラの世界を見つけてみませんか。

〔演出〕 青木真緒
〔出〕 新通英洋(指揮)
高橋絵理(ソプラノ)
村上公太(テノール) ほか



世田谷フィルハーモニー
管弦楽団
世田谷区民合唱団
えびな少女少女合唱団 ほか

一般 S席4,500円、A席2,000円
友 S席3,500円

※未就学児入場不可

第6回せたがやバンドバトル決勝大会

2月18日[日]15時 世田谷区民会館

第6回を迎え、一段とパワーアップしたせたがやバンドバトル。音源審査や2度の予選を経て決定する選りすぐりのバンドが、今年も熱いバトルを繰り広げます。

〔出〕 予選通過の10団体(予定)
〔審査員〕 湯川れい子(音楽評論家・作詞家) 鳴瀬喜博(カシオペア3rd) ほか
〔ゲスト〕 鈴木聖美



鈴木聖美

全席自由 [前売] 800円
[当日] 1,000円

1月9日[火] 発売開始

※未就学児入場可(ひざ上のみ無料)

チケット料金はすべて税込

せたがやアーツカード会員(前売のみ) 詳しくは裏面
友 世田谷パブリックシアター友の会会員(前売のみ) 詳しくは裏面
U24 18歳から24歳対象(要事前登録・前売のみ)
高校生以下 購入時年齢確認 ※当日年齢確認
車椅子スペース(定員有り、前日19時までにチケットセンターで要予約)
託児サービス(定員有り、2,000円、3日前の正午までに要予約) 03-5432-1526

友の会のご案内

《友の会》会員募集中 メンバーには盛りだくさんの特典!

■ 世田谷パブリックシアター友の会
SePT倶楽部

特典
・チケット先行予約・チケット割引
・会報誌《SePT倶楽部》を毎月送付
・劇場内ロビーカフェ無料ドリンク券プレゼント
・企画イベントへのご招待&ご優待

お問合せ
世田谷パブリックシアター友の会事務局
03-5432-1524
<http://setagaya-pt.jp/club/>

* 世田谷美術館(分館は除く)およびレストラン・ル・ジャルダン、SeTaBi Caféは2018年1月12日まで休館しています

■ 世田谷美術館友の会
FRIENDS OF SETAGAYA ART MUSEUM

特典
・世田谷美術館・分館の観覧料が、有効期間内何度でも無料
・実技講座・鑑賞会・美術館巡りなどへの参加
・会報《世田谷美術館友の会だより》を年3回送付
・提携美術館の入館割引
・館内ミュージアムショップの割引

お問合せ 世田谷美術館友の会事務局
03-3416-0607
<http://setabi-tomonokai.jp/>

■ 世田谷文学館友の会
Setagaya Literary Museum Friendship Club

特典
・友の会独自の講座・文学散歩への参加
・友の会会報、おしらせ、文学館ニュース、展覧会の案内を送付

お問合せ 世田谷文学館友の会事務局
03-5374-9111

〔各館友の会共通の特典/レストラン・カフェの割引〕
世田谷美術館・分館、世田谷文学館観覧料優待/レストラン・スカイキャロット(キャロットタワー26F)/レストラン・ル・ジャルダン、SeTaBi Café(世田谷美術館内)

せたがやアーツカード “世田谷区民限定”区民のみなさまのアート体験を応援する《せたがやアーツカード》

15歳以上の区民ならどなたでも登録できます。せたがや文化財団の各施設で割引料金などお得な特典をご用意。もちろん入会金・年会費無料!!

特典
● 世田谷パブリックシアター / 音楽事業部
▶ チケット先行発売・会員割引(一部を除く)
● 世田谷美術館・分館 / 世田谷文学館 ▶ 観覧料割引(一部を除く)
● 生活工房 ▶ 講座受講料割引(一部を除く)
● メールマガジン毎月配信 (ご希望の方のみ)

世田谷美術館 / 向井潤吉アトリエ館 / 清川泰次記念ギャラリー / 宮本三郎記念美術館 / 世田谷文学館の窓口でも受付。ファックスや郵送でも受け付けています。お申込みの際は、ご本人の住所が確認できる書類(運転免許証、各種健康保険証、住民票などの写し)をご用意ください。

詳しくは、<http://www.setagaya-bunka.jp/artscard/>

お問合せ・申込み受付: せたがやアーツカード事務局 キャロットタワー5階 03-5432-1548 (10時～19時) 年末年始を除く

今すぐお申し込みを!

せたがやのアートをみなさまの手で支えていただくために

寄付のお願い

文化・芸術の創造には、すぐれたアーティストの活躍はもちろんですが、それを支える有能なスタッフ、創造活動にふさわしい環境の施設など、ソフトとハードの両面で多大なエネルギーと資金が必要です。より身近に文化・芸術を支え、親しんでいただきたく、みなさまのご支援・ご協力をお願いいたします。

〔寄付のお申込みについて〕

おいくらからでもご寄付いただけますが、目安として2,000円からとさせていただきます。お申込みの際はお手数ですが、電話またはメールにてご連絡ください。

公益財団法人 せたがや文化財団事務局
03-5432-1501
jimukyoku@setagaya-ac.net

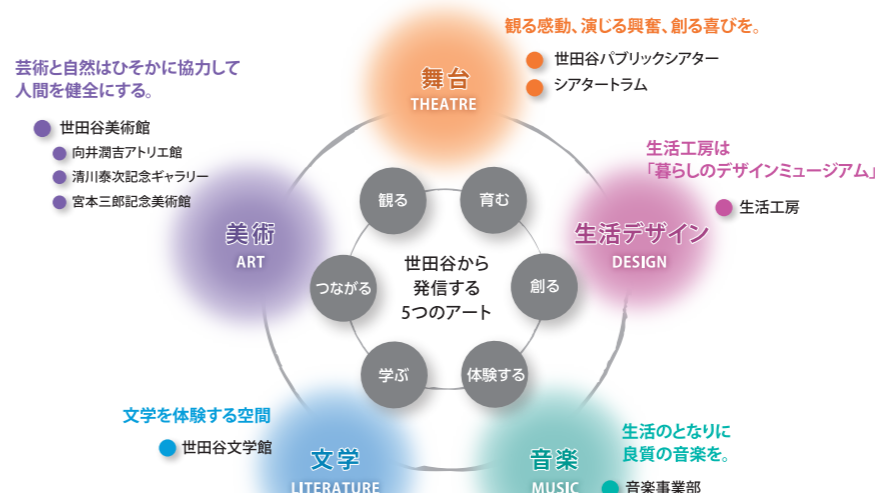
当財団へのご寄付は
税法上の優遇措置を受けることができます

個人によるご寄付の場合
確定申告を行うことで、寄付総額から2,000円を差し引いた金額が所得から控除されます。

法人によるご寄付の場合
「一般損金算入限度額」と「特別損金算入限度額」を上限として損金算入することが可能です。

個人住民税
都道府県・区市町村が各々の条例で指定した寄付金が個人住民税の寄付金控除の対象となります。ただし、各区市町村によって取り扱いが異なりますので、詳しくは、お住まいの区市町村にご確認ください。

せたがや文化財団は5つのジャンルを軸に
枠組みを超えた独創的な文化・芸術活動を行っています。



Setagaya Arts Navigation

“今日、何やってる?”

せたがやアーツナビ 検索
<http://www.setagaya-bunka.jp/>



表紙 : 野村萬斎 広末涼子
[写真: 岩井 寛 (VISIONARY VANGUARD)]

デザイン: 飯岡のみ
編集協力: ラユニオン・パブリケーションズ

*掲載した情報は2017年11月現在の情報です。やむを得ない事情などで開催予定、内容などが変更になることがあります。

*本誌に掲載の記事・写真の無断掲載を禁じます。

編集・発行: 公益財団法人 せたがや文化財団

© Setagaya Arts Foundation. All rights reserved.

世田谷美術館分館 清川泰次記念ギャラリー

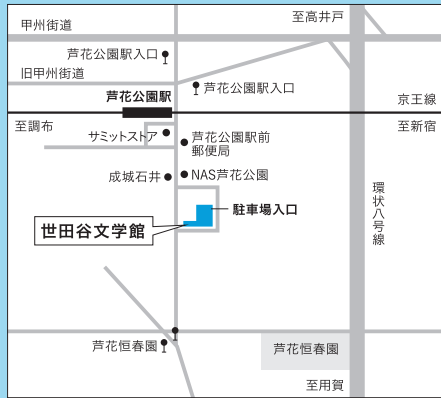
〒157-0066 世田谷区成城2-22-17
☎ 03-3416-1202 <http://www.kiyokawataiji-annex.jp/>



アクセス 小田急線「成城学園前」駅下車 南口から徒歩3分

世田谷文学館

〒157-0062 世田谷区南烏山1-10-10
☎ 03-5374-9111 (代) <http://www.setabun.or.jp/>



アクセス 京王線「芦花公園」駅下車 南口から徒歩5分
小田急線「千歳船橋」駅から京王バス(歳23)
千歳烏山行「芦花恒春園」下車徒歩5分

世田谷文化生活情報センター

〒154-0004 世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
☎ 03-5432-1500 (代)



生活工房 ☎ 03-5432-1543 <http://www.setagaya-ldc.net/>
世田谷パブリックシアター／シアタートラム
☎ 03-5432-1526 <http://setagaya-pt.jp/>
音楽事業部 ☎ 03-5432-1535
<http://www.setagayamusic-pd.com/>

アクセス 東急田園都市線「三軒茶屋」駅下車徒歩2分(地下道直結)
東急世田谷線「三軒茶屋」駅下車徒歩0分
小田急バス・東急バス「三軒茶屋」駅下車徒歩1分



世田谷美術館

〒157-0075 世田谷区砧公園1-2
☎ 03-3415-6011 (代) <http://www.setagayaartmuseum.or.jp/>



アクセス 東急田園都市線「用賀」駅下車徒歩17分または
美術館バスで「美術館」下車徒歩3分
小田急線「成城学園前」駅から渋谷駅バス「砧町」下車
徒歩10分
小田急線「千歳船橋」駅から
田園調布駅バス「美術館入口」下車徒歩5分
※2018年12月12日まで改修工事のため休館中

世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ

〒154-0016 世田谷区弦巻2-5-1
☎ 03-5450-9581 <http://www.mukaijunkichi-annex.jp/>



アクセス 東急田園都市線「駒沢大学」駅下車 西口から徒歩10分
東急世田谷線「松陰神社前」駅下車徒歩17分

世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館

〒158-0083 世田谷区奥沢5-38-13
☎ 03-5483-3836 <http://www.miyamotosaburo-annex.jp/>



アクセス 東急大井町線・東横線「自由が丘」駅下車徒歩7分
東急目黒線「奥沢」駅下車徒歩8分
東急大井町線「九品仏」駅下車徒歩8分

公益財団法人 せたがや文化財団

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1
キャロットタワー5F
☎ 03-5432-1501 ☎ 03-5432-1559
<http://www.setagaya-bunka.jp/>